

# 棋士の情景

～勝負の巖かでは、どんな時代も変わらない～

棋士・九段 島 朗

(第7話)

## 記憶力

～野に遺賢あり～

棋界を制覇している状況が続いている藤井聡太竜王・名人ですが、唯一タイトルを保持していない「叡王戦」では挑戦者を目指すトーナメント戦で苦杯を喫し、全冠（八冠）復帰はなりませんでした。それでも、この一年近くタイトル防衛戦を粛々と、しかし迫力を感じさせながら積み重ねてこられた訳ですから、何らその評価を下げるものではありません。ニュースや物語としては八冠復帰を期待していた方々も多いかと思いますが、私個人としては全冠制覇を一度成し遂げたことに絶大な価値があり、むしろご本人の棋士寿命を考えた時には、完全に少し欠けるくらいがいちばんモチベーションも、健康面でもプラスに作用し長持ちするのではと考えています。かつて羽生善治九段が、当時の全冠（七冠）制覇をされた時も、そう感じたことを思い出しました。

羽生さんが、タイトル99期という途方もない高みまで積み上げたのも、全冠制覇にこだわらずひたすら将棋への好奇心・探求心を積み上げた結果だと思えます。藤井さんも、その道をこれから追っていく中で、繰り返しになる防衛戦ばかりではなく、時には挑戦する状況のほうが新鮮な気もするのです。

先日、森内俊之九段が書かれた藤井さんの技術書を本屋さんで買いました。その中で、藤井さんの強みの一つに人並み外れた記憶力、という見方が入っていて、現代将棋に特に必要な「理解を深めた、すぐれた記憶力」

でも第一人者なのかと頷かされるものがありました。もちろん現場での判断力が勝負の要諦ではありますが、対局を円滑に進める上では、昔よりもはるかに記憶力が勝負の重要な要素になります。記憶力の悪い自分としては、これも努力と天性の両方なのだと羨望するばかりです。

棋士は記憶力がいいと多くの皆さんは錯覚してくれていますが、確かに恐ろしいと感じる同業は少なくありません。ただ記憶力に格別恵まれていなくても、鍛錬によって引き上げていくことは可能です。脳は好きなことに集中しますから、その原則を考えればかなりの部分まで人は能力を伸ばせるのではないのでしょうか。

先日、驚愕すべき記憶の達人と出会いました。私は東北出張が多いため東京駅グランスタ地下の「崎陽軒」でお弁当を買い込んで乗車することが多いのですが、ある時いつものようにお弁当を買っていたら、別の女性販売員の方が現れて「先日、お釣りを50円少なくお渡ししてしまいました。失礼いたしました」と丁寧にご挨拶されて返金してくれたのです。もちろん私は何ら記憶になく、ましてや東京駅ですので先方様は一日無数の方と接客されるはずですが、その出来事は私の人生の中でも、いちばん記憶に残る50円になりました。心底感服の限りです。

今後もずっと崎陽軒さんでお世話になることが決まりました。